

南知多町立小中学校適正規模・適正配置基本計画（案）に対するパブリックコメントの結果について

- 1 実施募集期間
令和2年11月2日（月）～令和2年11月15日（日）
- 2 意見提出者数
10名
- 3 提出された意見の概要と町の考え方
いただいた意見の概要と、それに対する町の考え方は、以下のとおりです。

No.	意見等の概要	町の考え方
1	<p>統合を絶対に、そして早急にしていきたい。統合先はどちらになってもかまわない。</p> <p>統合という未来もいずれは南知多の歴史となる。過去を守るばかりではなく、新しい歴史を他地域から嫁いできた人、移住してきた人にも作らせてくれる町になってほしい。</p> <p>統合して、町内のいろいろな地域の方の文化や人に触れることが保護者としても楽しみです。様々な意見があるかと思うが、統合されることを望む。</p>	<p>学校統合後は、今までと異なった地域から子どもたちが通学するので、学校、家庭、地域がより強い連携の中で、保護者や地域住民の教育活動や学校運営への積極的な参加を促進し、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進していきたいと考えています。</p>

2	<p>◎小学校＜第1段階＞</p> <p>大井小と師崎小の統合、統合校の位置、統合時期も含めて、計画どおりに実施していただきたい。</p> <p>統合により複式学級を避けられる手立てがあるなら、複式学級は極力避けた方がいいと考える。上級生が下級生を見る事により、協力関係が作られる事を是とする方もいるが、上級生にとってはその分、自分の時間を使う事になってしまい、本来、あるべき学習時間が奪われてしまいかねない。よって学習能力の向上を維持していくためにも、複式学級は避けるべきだと考える。</p>	<p>全国で複式学級に取り組んでいる学校はたくさんあり、悪い面だけではなく、良い面もあります。しかし、一般的には、別々の教科を同時に授業する場合、どうしても子どもたちが自主学習を強いられる場合があったりするデメリットも指摘されています。複式学級にならないように、学校規模適正化を進めていきたいと考えています。</p>
	<p>◎中学校＜第1段階＞</p> <p>当初の計画では令和4年4月と具体的目標があったが、「令和5年以降でき限り早い時期」となり、目標が少しトーンダウンしてしまったのは残念。「できる限り早い時期」という文言ではなく、令和5年4月と明記し、より具体的ロードマップを示し、南知多町がはっきりとした強いリーダーシップを取り、統合の歩みを着実に進めていただきたいと考える。</p>	<p>令和2年9月から10月に、小学校の適正配置に関する保護者意見交換会において、学校の適正配置（案）を提示し、ご意見をいただきました。そこでのご意見を踏まえ、慎重に検討して、南知多町立小中学校適正規模・適正配置基本計画（案）を作成しました。</p>

<p>また「地域の理解を得たうえで」とあるが、「地域」ではなく、「保護者」と書き換え「保護者の理解を得たうえで」に修正をして良いと考える。学校統合に関して、地域における非子育世代の方々は、今の子ども達を自分が歩んできた時間と照らし合わせて語られる事が多い。しかし、子ども達はこれからの未来を生きていく。過去の思い出やノスタルジーは、これからを生きる子ども達には、必ずしも必要な事だと言い切れないことも多くあると思う。地域における文化・伝統は確かに大事であり、受け継いでいくべき事だと思ふ。しかし、その文化・伝統も時代と共に変化し、形を変えていく。守るべき文化・伝統もあれば、変えていくべき文化・伝統もある。そしてそんな文化・伝統を次世代へ継承していく役割は、地域や家庭が担うべきだと考える。地域における学校はその補助的役割であって、その部分まで学校が担ってしまえば、学校へ過剰な負担を背負わせる責任転換に感じてしまう。なので、統合により地域から中学校がなくなった時こそ、地域における「地域力」が必要とされ、その力を発揮する時だと考える。そして新設される中学校に通い、小学校まで過ごした地元とあえて距離をおくことで、生まれ育った地域の文化・伝統を俯瞰的に見ることができ、より深い地域愛を育むきっかけになると思う。地域における非子育世代の方々は、中学校において部活動の選択が少ない子ども達の悲哀をどこまで感じているのか。加えて、クラス替えのない小中学校を経て、高校入学で同級生が200人・300人といった学校へ通う子ども達や保護者の不安をどう受け取っているか。このような実生活における子ども達の気持ちや心情を第一に考え、この気持ちに毎日直面している保護者の気持ちを考えると、統合の歩みを止める事は絶対に避けるべきで、繰り返しになるが「でき限り早い時期」ではなく、令和5年4月と明確に謳うべきと考える。</p>	<p>中学校は本来義務教育のための施設ですから、子どもの学習の場としての機能を高めていくという教育論を第一に考えることが必要です。子どもたちを学校教育の中でたくましく豊かに成長させていくことが、何よりも町が将来にわたって発展するための基礎になると考えます。学校の規模適正化・適正配置の軸は、あくまで教育条件の改善であると考えています。保護者の皆さんから、子どもの教育にとってどういう環境が最善の選択なのかという視点にたったご意見をお聞きすることが大切であると考えていますが、地域の理解を得ることも必要であると考えています。</p> <p>南知多町学校規模適正化基本計画の実施を実現していくために、多くのみなさんの理解が得られるよう努力していきます。</p>
--	--

3	<p>統合に賛成。財政が圧迫している中、少しでも未来の子ども達への負担を減らしてあげたい。ボロボロの校舎5校を維持するためではなく、1中とし、子ども達の学習環境を整えていただきたい。</p> <p>どの地区からも、通学距離を考えたら、豊浜中は良いと思う。大井、師崎の人口減少への不安は少しは緩和されると思う。</p>	<p>中学校の統合時期、統合の形、既設の校舎を利用するのかどうかにつきましては、今後、更なる具体的な対応案を示したうえで、保護者アンケートを実施するなど、引き続き統合についてご意見をいただき、地域の意見を尊重し検討を進めていきます。</p>
	<p>説明会は、保護者中心にしてください。子ども達の良い環境を考えて発言しているようには感じられなかった。</p>	<p>学校規模適正化・適正配置の軸は、あくまで教育条件の改善であると考えています。保護者の皆さんから、子どもの教育にとってどういう環境が最善の選択なのかという視点にたったご意見をお聞きすることが大切であると考えていますが、地域の理解を得ることも必要であると考えています。</p>

4	<p>小学校の部活が地区により違って、子供のやりたい部活がないのが残念で、小学校と中学校の部活が統一されていないのも疑問。</p> <p>令和4年に中学校が統合になる話が出て、中学2年から自分の好きな部活が出来ると子供が喜んでいましたが、それが先送りになりとても落胆している。統合をすごく楽しみにしていた子もいるという事も分かっていたきたい。</p> <p>通学時間が多少かかっても自分のやりたいことができる環境になることの方が嬉しいと子どもは言っていた。</p> <p>統合はまだ先の話ですが、先の話だけではなく、少人数がまだ続いている今、やりたい部活があるけれど、自分の通う中学校にはない、他の中学校まで通うやる気のある子には、他中の部活に参加できるように取りはからっていただきたいと思う。平日は時間的にできないが、土日の部活、他中の試合参加など。同じ町内の場合、認めていただき、子どもたちのやる気に合わせていってあげてほしい。(例) 平日は自主練、又は他部活への練習参加。休日は送迎又は自主通学で他校の部活参加、トライアルとしてでもいいと思う。</p>	<p>小学校の部活動の種目につきましては、児童数、教員数、学校の活動場所の大きさなどを考慮し、決定しています。</p> <p>子ども達の部活動に対する意欲を高め、成果のある部活動となるよう、学校間の連携を大切にして運営していきたいと考えています。</p>
	<p>内海中学校の場合、運動場が広く部活分のスペースがとれるので遠くてもいい。開けているので中学校があると分かりやすい事も防犯につながる。津波など災害が心配とあるけれど、自転車通学をしている子も、山海から内海へスクールバスで通っている小学生もいる。その時点で災害対策はできているのではないかと思う。</p> <p>豊浜中学校の場合、町の真ん中という事で立地がいいと思う。高台にはあるけれど土砂災害が心配。意見の中にスクールバスの子どもは昇降口前で降ろすとあるが、道幅も狭いので停留所でもいいと思う。徒歩通学、自転車通学をする子はあの坂を登っていると思うので。</p>	<p>中学校の統合時期、統合の形、既設の校舎を利用するのかどうかにつきましては、今後、更なる具体的な対応案を示したうえで、保護者アンケートを実施するなど、引き続き統合についてご意見をいただき、地域の意見を尊重し検討を進めていきます。</p>

運動場が部活一つ分しかないのなら曜日ごとで運動場を使える日を決める等すればいい。(近場の運動場などを借りれるのが一番いいと思う。)

内海中・豊浜中、どちらにしても両島からの通学時間には差がないと思う。師崎中は選択の中には入っていないと思うのであきらめている。三年間通う子供たちの意見を重視して決めていってほしいと思う。

今ある校舎を使っていけばいいので校舎設立をする必要がないと思う。コストをかけても今の子供たちも10、20年後にその借金を背負っていく事になる。そうしたら町に残りたいと思う子どもたちがどのくらいいるのか。

① 3年間通学時間はかかるが、借金を少ない。

② 負債は多くなるが、新しい校舎に通える。

上記の様なことを子どものたちにも教えてあげて、そして考える機会を与えてあげてほしい。

もし本当に新校舎を作るのであれば十年後に小中一貫校として通えるような学校にしてほしいと思う。

子どもたちのアンケート結果を見返しましたが、全体的に統合に反対する子は少なく、師崎中学校の子は通学手段も多少かかってもいいとあった。

親の負担などの話も出ているようですが、義務教育として統合する中学校に通うのも、南知多町を将来背負っていくのも子どもたちです。保護者向けの話し合いも必要かとは思いますが、子どもの意見、気持ちがあまりにも取り残されていっているような気がする。

考えられる年齢の子どもたちも交えて話し合いをする機会を作ってあげてほしい。年代層を広めた話し合いをしていくのが良いと思う。

5	<p>記録が残っていると思うが、平成24年に行われた住民会議で、豊丘の新運動公園を教育ゾーンとして学校再編についての話し合いがあり、南知多中学校1校、南知多小学校1校への統合、校舎の新設が取り上げられたと記憶している。</p> <p>今、小中学校再編が浮上しているが、過去にもこの問題は取り出されているので、新校舎を建築して1校に統合すべき。現段階では、予算上のこともあるから当面、内海中学校か豊浜中学校に絞って、南知多中学校1校として統合し、新校舎設立まで現行の校舎を使用（改修の必要なし）。篠島、日間賀島の中学は、新校舎ができるまでは、分校としてはどうか。</p> <p>賛否は必ずある。既に過去2回も学校統合会議が行われてズルズルと先延ばしになっていると思う。町執行部の意向を固めて、住民にはっきり示すべきと思う。</p>	<p>中学校の統合時期、統合の形、既設の校舎を利用するのかどうかにつきましては、今後、更なる具体的な対応案を示したうえで、保護者アンケートを実施するなど、引き続き統合についてご意見をいただき、地域の意見を尊重し検討を進めていきます</p>
	<p>近い将来、小学校についてもスクールバス通学が前提となっているならば、中学校同様に考えていってはどうか。小学校、中学校がそれぞれ1校となれば相当の経費削減、構造改善になるかと思う。</p>	<p>小学校については、統合して適正規模の学校にすることは、児童の発達にとって望ましい教育環境になりますが、通学などの負担が増えるうえ、子どもたちを地域の教育力を活用して育てることは難しくなります。そのため、まちづくりの機能を十分に発揮できるように、地域に存置することが必要と考えています。しかしながら、将来的には、児童数の推移、校舎等の老朽化、まちづくりの状況等、地域に小学校を置いた価値の評価をし、統合する必要性について検討していきます。</p>

	<p>また、現在の小中学校は、民間活用をも考えた利用方法を考えるべきと思う。</p>	<p>廃校施設等の利用につきましては、公共施設総合管理計画の中で検討（転用、複合化、撤去等）を進めていきます。</p>
6	<p>この課題が最重要課題の一つと言われているが、小学校の統合が当面、師崎と大井だけにとどまっている点及び中学校の統合が令和5年以降といった期限のない計画では、スピード感もなく、とても最重要課題とは思えない。今後も今以上に少子化が進み、財政面でもより一層苦しくなることが見えている以上、やるべきことを洗い出し、いつまでにそれを決めて「いつまでに」統合するという期限を明確にすべきではないでしょうか。「以降」という計画では、何かしら言い訳をつけて遅れていってしまうのが目に見えているかと思う。様々な検討が必要なことは分かるが、将来を考えるのであれば、先を見据えて今、小、中共に1校とし、その分で生まれたお金でより良い教育を行うという考えも十分ありなのではないか。また、少子化の問題を抱えている市町村は多くあると思う。何かいい事例をベンチマークにするなどしても良いのではないか。</p>	<p>「今後さらに小規模化が進むこと」、「学級の規模・人数が少なくなりすぎることに」対し、非常に危機感を持っています。児童生徒に十分な教育環境を提供するためには、「学校規模適正化」は推進していきたいと考えています。しかしながら、小学校においては、現時点では、「小学校は各地区（旧町単位）に1校ずつ存置し、5校とする」ことが望ましいと考えています。</p> <p>中学校につきましては、適正規模として考える学級数は、中学校で必要と考えるのは、全学年でクラス替えを可能とし、学級を超えた集団編成を可能とするためには、少なくとも1学年2学級以上であることとしています。そのため、町内で1中が適正と考えていますが、できる限り早い段階で統合をしたいと考えていますが、今回の基本計画案の中学校の第一段階では、具体的な統合期限などは定めていません。これは、保護者対象の意見交換会の意見をお聞きすると、早い時期での1中は、難しいと感じているからです。「令和4年に統合をして欲しい」という声もあります</p>

		が、「統合は何年経っても嫌」という声もあります。住民の理解を得るためには、今後、更なる具体案を示したうえで、保護者アンケートを実施するなど、引き続き統合についてご意見をいただき、地域の意見を尊重し検討を進めていきます。
7	P25 「学校規模適正化の基本的な方針」 地域の教育力とは具体的に何か	地域の教育力の活用は、地域が学校と連携・協力することにより子どもたちの教育環境を充実させようというものです。具体的には、地域のプロジェクトや行事への参加・交流、地域の方に講師を依頼（ゲストティーチャー）などです。
	それぞれの学校を少人数のまま維持させていくよりも1校に統合した方が、コスト、マンパワー等を集中させることができ、結果的に質の高い教育を提供できるのではないかと。地域との繋がりという点においても、実質的な距離はあったとしても、南知多町全体として町を身近に感じられるような教育をすることはできるのではないかと。南知多町は「消滅可能性都市」として挙げられているような危機感のあるまち。田舎だからこそ、革新的な教育を推進していかなければ町が目標とする子育て世代の増加は難しいように思う。人数が減るから仕方なく統合するというような後ろ向きな再編計画ではなく、町として生き残っていくための改革となるような機会になってくれることを願う。	学校規模の適正化の検討は、児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものと考えていますが、本町を取り巻く状況を考えたとき、今後、推定されている大幅な人口の減少は、働き世代の割合が減る、つまり、税収が減ることだけでなく、医療・介護・社会保障制度が維持できなくなるにつながるおそれがあり、このままですと今の教育が維持できなくなるおそれもあると危惧しています。 学校統合ともなると、スクールバスの導入費用や施設整備費など、新たに発生する費用も出てきますが、統合により学校が少なくなれば、当然、建物の施設整備費や光熱水費、修

		繕料、学校用務員や支援員など人件費や教育用コンピュータのリース料など多くの経常費用を節約でき、その分、子どもたちのために、より良い教育環境整備を図るための財源を確保できると考えています。
8	<p>中学校の統合自体は賛成。</p> <p>位置に関しては、できるだけ自転車で通学できる地域、今の豊浜中学校、または新設して全ての地域から通いやすい場所にして欲しい。内海中学校の位置は町内の端に位置し、駅の利便性を強調されているが、毎日の通学に関して多くの生徒が不便になる。</p> <p>様々な調査結果を示してもらえるのはありがたいが、住民説明会の皆さんの意見を聞くと、偏った情報で信頼性に欠けるように思える。どの地域も譲り合い、協力すること。公平性を感じる計画が必要なため、生の意見を聴くことが大切。アンケートの数字には表れない声を聴くために、保護者に関しては、授業参観などを利用して公平に意見を取り入れられる話し合いの場を持ってほしい。</p>	<p>中学校の統合時期、統合の形、既設の校舎を利用するのかどうかにつきましては、今後、更なる具体的な対応案を示したうえで、保護者アンケートを実施するなど、引き続き統合についてご意見をいただき、地域の意見を尊重し検討を進めていきます。</p>
	<p>大井小と師崎小の統合についても、児童数の減少から仕方ないことだと思うが、統合場所は中央に位置する師崎中学校を利用してほしい。多くの児童が徒歩で通学できること、それぞれの地区との交流がしやすいことが理由。施設の改修工事や通学路の整備に時間がかかるため、中学校の統合後、よく計画を練ってから進めてほしい。令和4年4月開校は延期してほしい。</p>	<p>大井小と師崎小の統合は、師崎地区の複式学級の回避や男女比の極端な偏り等の課題を早急に解消することを最優先と考え、最短となる令和4年4月を統合時期としました。師崎小学校の位置としたのは、上記のとおり最短で統合可能であるためです。現在も小学校として利用しており、かつ、統合により学級数が増加するわけではないため、そのまま校舎を使用することができます。</p> <p>なお、師崎中学校については、中学校再編が</p>

		令和5年度以降となるため、現時点で小学校として利用できる目処がたっていません。
	<p>学校適正化の話し合いを進める中で、町長、教育長を始め多くの方が、子どもたちのこと、地域のことを考え、学校統合を進めようとしていてくださることは本当にありがたいこと。新しいことをすることはとても大変なことで、エネルギーもいること。反対するのは簡単ですが良い案を出すのはとても大変なことだと思う。でも、より良い南知多町を残すために、他地域の例を見習うだけではなく、南知多ならではの良さを生かした改革を考えていただけるとありがたい。</p> <p>私なりに南知多の良さを考えてみた。</p> <p>① 自然が多い</p> <p>② 地域ごとのつながり、団結力が強い</p> <p>③ 地域の人たちが人情味がある</p> <p>④ 学校では、少人数学級のため、きめの細かいサポートをしてもらえる。</p> <p>⑤ 児童数が少ないため、異学年交流が盛んになり、学校全体での助け合いや団結力が強くなる</p> <p>逆に悪いところは</p> <p>① 不便である</p> <p>電車が通っていないため、車がないと困る。歩道が少なく自転車も使いにくい。店が少ない。(大型店が少なく、子どもの服や本、教育に必要なものがそろえにくい)。働く場が少ない。</p> <p>② 子どもが少ないため、多くの子どもたちのふれあいの機会が少なくなる</p> <p>以上の点を踏まえて、学校統合以外の方法があるならば検討していただ</p>	<p>学校教育では、子どもたちが学校での学習を通して学力を高めるとともに、集団の中で多くの友人、様々な人間関係の中で互いに成長していきます。学校規模によりそれぞれメリット・デメリットはありますが、様々な考え方に触れ、自分の考えを深めたり、意見を出し合って高めていく学びあいや社会性や協調性を身につけながら成長するうえでは、多様な教育活動を展開することができる一定の規模の確保が望ましいと考えます。</p> <p>学校規模の適正化を図るための手段としては、主として学校同士の統合が考えられますが、それ以外にも、通学区域の見直しにより大規模校の児童生徒数を減らし、小規模校の児童生徒を増やすこと、学校選択制を部分的に導入すること(小規模特任制度)なども考えられます。</p> <p>しかし、本町の学校の全ては小規模校であり、通学区域の調整によって望ましい規模を確保することは困難であることから、学校統合により適正化を図ることを考えています。</p>

	<p>きたいが、統合するならば、できるだけ公平に中央に位置する場にしていただきたい。また。交流授業や合同行事、リモート授業などを行うことで、他地区の子どもたちが協力して活動する機会を多くし、多くの人とふれあうことができるようにして欲しい。</p> <p>少人数指導を生かして、多人数の学校になじめていない他市町村からの児童を受け入れる体制を作ることも考えて欲しい。</p> <p>交通不便の解消と、働く場、住む場の提供をすることで、若者世代が住みやすい環境を作る政策をお願いしたい。</p> <p>社会情勢の変化に伴い、情報化が進み、少人数を生かしたままで他地域とつながるといった、今までの対策とは違う方法も考えられるかもしれない。また、財政面では、企業のクラウドファンディングのような個人の心ある人の協力も得られる可能性があるかもしれない。南知多町を思う気持ちの強い方々がいるうちに、今、思い切って改革することが必要だと思う。でも、今も大切ですが、少子化を心配して、急ぐあまりに、行き当たりばったりの政策にならないように、長期的に広く長い目で見て本当に必要なことを考えて、みんなが納得する政策を実行していただきたい。</p>	
9	<p>1P 「確かな学力」のあとに「自己肯定力」を挿入する。</p> <p>「自分はできない」、「能力がない」と思い、あきらめてしまう傾向があると指摘されている（競争の中で）。「自分でもできる」、「やれる」という思いを持つことが大事と考える。それが「生きる力」につながることはないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「確かな学力や自己肯定力を身に付け」に修正します。</p>
	<p>2P H18. 2「1中5小」の基本構想の策定</p> <p>この構想について、町民への周知はされていない。全く行政側の独断である。</p>	<p>「学校統合の基本構想」は平成18年2月の定例教育委員会において策定されました。この基本構想に基づき、豊丘地区の豊丘小学校を豊浜小学校に統合、内海地区の山海小学校を内海小学校に統合をいたしました。</p>

<p>2P H31.3の「基本的な考え方」の策定 町民への周知はされていなかった。</p>	<p>策定年月につきまして修正いたします。「学校規模の適正化に関する基本的な考え方」につきましては、平成31年1月の第2回総合教育会議で策定いたしました。</p>
<p>2P R1.7月 「保護者アンケート」 アンケート資料は「衝撃的な数字」を示し、「さあ、どうするか」と迫ったものであった。少人数学級の、小規模校の良さを並列したアンケートになっていなかった。</p>	<p>令和元年7月に実施しました「学校規模の適正化に関するアンケート」は、平成18年2月に策定した「基本構想」について意見を聞き、その再検討も含めて今後の参考とするため調査を実施したものです。 参考資料としまして、学校区別年少人口などの他、小規模校のメリット・デメリットを併記した資料を同封して実施しました。</p>
<p>2P R1.10～11月 5地区意見交換会 具体案を示さず、アンケート資料に基づいた説明で、統合を誘導していた。</p>	<p>「南知多町学校規模適正化（学校統合）に関する意見交換会」は、小中学校適正規模適正配置にかかる基本計画策定の参考とするために、「未来を生きる子どもたちの教育にとって『最善の選択』は何か」について、中学校区ごとの地域住民の考え・意見等を把握することを目的として実施しました。 意見交換会の進め方は、前半に7月に実施したアンケート結果の説明を行い、後半にグループに別れ、意見交換を行ったもので、統合への誘導をするものではありません。</p>
<p>2P E2～3月 P役員対象 ここでも、具体案を示さず統合を誘導</p>	<p>師崎地区のPTA意見交換会は、学校規模適正化について、師崎地区のアンケート結果は何らかの統合をすべきとの意見が多かったこ</p>

		<p>とから、PTA役員会の場において、統合場所についての意見をお聞きしました。</p> <p>両島のPTA意見交換会は、学校規模適正化について、「小学校は、現状維持とする。中学校は、保護者や地域の方々の同意の上で、一つに統合すること」についてのご意見をお聞きしました。</p>
	<p>P14 小規模化に伴う課題「小規模化は更に進む」</p> <p>「各学級の小規模化は更に進む」との表現は、デメリットにとらえることになる。コロナ禍で、少人数が求められている。</p>	<p>学校教育では、子どもたちが学校での学習を通して学力を高めるとともに、集団の中で多くの友人、様々な人間関係の中で互いに成長していきます。学校規模によりそれぞれメリット・デメリットはありますが、様々な考え方に触れ、自分の考えを深めたり、意見を出し合って高めていく学びあいや社会性や協調性を身につけながら成長するうえでは、多様な教育活動を展開することができる一定の規模の確保が望ましいと考えます。</p> <p>その上で、コロナ感染防止対策として児童生徒間の十分な距離、「新しい生活様式」で推奨される人との間隔はできるだけ2mを確保するための少人数学級は検討していくものと考えています。</p>
	<p>P14(1) (師崎小) 「令和5年以降」は、「令和7年以降」に</p> <p>(師崎小は) 令和7年に3年生が3人、4年生が10人で見込まれるため、令和7年と変更すべき。説明で強調していた「男女比の偏り」、「保育所の生活から別れるのはかわいそう」がなくなったのは、当然</p>	<p>師崎小学校においては、令和5年度以降、「3年・4年」又は「5年・6年」で14人以下の児童数になることが見込まれており、愛知県教育委員会の学級編制基準では、複式学級となることが懸念されます。ただし、現行の</p>

		<p>制度には隔年複式学級解消の特別措置の適用があり、制度が将来的に継続される場合には単式学級となることもあります。</p>
	<p>P16 6 「適正化の必要性」 「推進すべき」を「する方向」で、「より具体的に」から「より」を削除する。 議論不十分であるため。教育への投資は、将来町を担う子どもたちのための先行投資であり、その点を町民に十分してもらいたいことも大切。</p>	<p>学校教育では、子どもたちが学校での学習を通して学力を高めるとともに、集団の中で多くの友人、様々な人間関係の中で互いに成長していきます。学校規模によりそれぞれメリット・デメリットはありますが、様々な考え方に触れ、自分の考えを深めたり、意見を出し合って高めていく学びあいや社会性や協調性を身につけながら成長するうえでは、多様な教育活動を展開することができる一定の規模の確保が望ましいと考えます。</p> <p>また、一方では、本町を取り巻く状況を考えたとき、今後、推定されている大幅な人口の減少は、働き世代の割合が減る、つまり、税収が減ることだけでなく、医療・介護・社会保障制度が維持できなくなることにつながるおそれがあり、このままですと今の教育が維持できなくなるおそれもあると危惧しています。統合により学校が少なくなれば、当然、建物の施設整備費や光熱水費、修繕料、学校用務員や支援員など人件費や教育用コンピュータのリース料など多くの経常費用を節約でき、その分、子どもたちのため</p>

		に、より良い教育環境整備を図るための財源を確保できると考えています。
P17 「子育てにとって魅力のある教育システムを作り上げる」を挿入 子育て世代に、子どもを育てるには南知多町という教育体系をつくり、人口増に続けたい。		ご意見を踏まえ修正します。 「若年層（子育て世代）にとって魅力ある教育環境により人口増を推進する町の立場と」に修正します。
P25 「必要と考える学級数」 小学校「複式学級を解消するためには、少なくとも」を削除		全国で複式学級に取り組んでいる学校はたくさんあり、悪い面だけではなく、良い面もあるのは事実です。しかし、一般的には、別々の教科を同時に授業する場合、どうしても子どもたちが自主学習を強いられる場合があったりするデメリットも指摘されています。複式学級にならないように、学校規模適正化を進めていきたいと考えています
P25.2①「複式学級を回避しつつ」を削除 弊害ととらえているのか。全国には令和元年には小学校 1689（公立）ある。		
P26.3 「健やかな体」のあとに「自己肯定力」を入れる。 「自分はできない」、「能力がない」と思い、あきらめてしまう傾向があると指摘されている（競争の中で）。「自分でもできる」、「やれる」という思いを持つことが大事と考える。それが「生きる力」につながることはないか。		ご意見を踏まえ、「自己肯定力」を追加します。 2021年1月修正 「令和2年度の南知多町の学校教育指針」との整合性を取るため素案のままとします。 ※ご意見にあります「自己肯定力」につきましては、文中「豊かな心」に含まれるものです。
P26.4 「切磋琢磨する」を「励みあう」に変更 「切磋琢磨」は、同じ目標に向かうことであり、一人ひとりの目標は異なるからである。		ご意見を踏まえ、「切磋琢磨する」を「学びあう」に修正します。

	<p>P28 「令和4年4月」 「令和7年4月」に、住民、保護者への説明不十分であり、複式学級は、令和7年から見込まれる。男女比の極端な偏りはジェンダー平等をめざす上で、問題ないとする。</p>	<p>ジェンダー平等とは、性差別や暴力、性別による固定的な役割分担などの要因となっているジェンダーを見直して、すべての人が性別にかかわらず個人としてその尊厳が重んじられ、個性と能力を十分に発揮するとともに、あらゆる分野に参画し、責任を担い、平等に利益を受け取ることができる状態を言います。ジェンダー平等教育を行う上でも、適正な男女比とすることは必要と考えています。</p>
--	--	--

10	<p>教育委員会の権限について</p> <p>文科省初等中等教育局発表、平成 25 年 2 月「教育委員会制度について」という資料から抜粋。</p> <p>趣旨説明、A 政治的中立性の確保—個人的な価値判断から中立性を確保、C 地域住民の意向の反映をあげている。また、地方教育行政について指摘されている課題から抜粋、(2) 地域住民の意向を十分反映していない—教育委員の多くは教育関係者や OB が占め、閉鎖的かつ教育関係者の意向に沿った教育行政を行う傾向がある。(3) 教育委員会の審議は形骸化している。事務局の提出する案を追認するだけで実質的な意志決定を行っていない。</p> <p>以上の文科省の発表は、全国の教育委員会で問題が起きているから権限が逸脱しないよう出されている。</p> <p>統合案について</p> <p>2 統合に関する南知多町の案は、権限を逸脱し住民の意見が様々出されたにもかかわらず、無視されて原案のまま決められようとしている。私は、第二回の説明会に参加しました。質疑された全員が統合しないことも含め、もっと慎重に決めて欲しい、と言ったにもかかわらず、最後のまとめを行った委員長は、子どものためにはこの案が一番良いのでご理解のうえ、12 月議会に出しますとまとめた。このことは、文科省の権限の中の「個人的価値判断」にあたり中立から逸脱している。まとめ役であるなら、住民の様々な意見をもとに複数の選択肢を案に入れ、住民に提案し慎重な討議を十分尽くすのが教育委員会の役目のはず。どこに住民の意向が反映されたのか。一つも反映されていない。こんな運営の仕方ですべて決めてしまうようでしたら、一部始終を文科省に知らせ直訴するしかない。または、住民投票を行うよう相談するしかない。</p>	<p>学校規模適正化の取り組みにつきましては、令和元年 7 月に小中学校に通っている児童生徒及び未就学児の保護者全員を対象に「学校規模の適正化に関するアンケート」を実施しました。その後、地域住民を対象に意見交換会を 10 月から 11 月に行いました。</p> <p>令和 2 年 6 月からは、小中学校規模適正化懇談会を開催し、基本計画の作成のために意見を伺いました。</p> <p>さらに、令和 2 年 9 月から 10 月には、小中学校の適正配置に関する保護者意見交換会において、学校の適正配置（案）を提示し、ご意見をいただきました。それらのご意見などを踏まえ、慎重に検討して、南知多町立小中学校適正規模・適正配置基本計画（案）を作成しました。</p>
----	--	---

<p>少子化について</p> <p>3 国は少子化は時代の流れで、それに伴う小規模学校が増加していることで、対策として、全国に2百数十学校を選び統合しないで小規模校を地域ぐるみで運営する方策を打ち出している。根底には、統合による最大の問題が、地域から保育園、小学校がなくなった地域が若者が町に移住して、高齢者中心の村になっていく結果、村全体が消滅しているから。実際、南知多の多くの村も例外でなく、豊浜地区は特に若者家族の移住が後を絶たない。子どもが生まれ育つ環境づくりこそ、みんなが安心して住めるまちである。日間賀島、篠島では本島より子どもの数が安定している。どうしてだか考えてください。子どもが住みやすい第一条件は保育園と小学校が地域にあることである。まちなに移住する若者家族は、まちには住んでいる地域に保育園と小学校、中学校さらに高等学校があるからである。</p> <p>数十年後を見通した討議をする</p> <p>4 今の幼児、小学生、中学生が20年後、30年後この町の中心人物である。現在の大人は、過疎化し自分の子どもが結婚や子育てをしたくてもかなわずまちへ移住した後に、老人だけ取り残されたさみしい老後を送るのです。仕方ありません。そう仕向けたのですから。</p> <p>そうならない選択肢があります、廃校になった保育園や小学校の再開、今ある小学校を残す、そのうえで子どもの教育を村ぐるみでやれば十分教育できるはずである。しかも、海あり山ある南知多は、子どもにとって一番最高の環境で、都会から移住する可能性は十分にある。大人中心のまちづくりを子ども中心に変えて欲しい。</p>	<p>地域に根差した学校が、南知多町の特徴であると思います。ご指摘のとおり学校がなくなると地域の活力が損なわれる心配もあると考えられます。仮に統合となった場合でも地域コミュニティが崩壊しないよう、廃校後の跡地利用もふくめ、町長部局と調整を図りながら進めないといけないと考えます。</p> <p>また、少子化はさらに進行することが予想されており、このままにしてはおけないと考えます。学校規模の適正化は、地域の未来を担う子どもたちの教育の在り方はどうあるべきかを考え、教育環境の確保と教育の質の充実を目的として行うものです。</p> <p>人口減少の歯止めが容易ではなく、児童数の回復が見通せない実態の中で、「学校は地域の宝」との概念を大切にすあまり、子どもの教育という視点が薄れてしまうことのないように教育委員会としては考えています。</p>
---	--